

オンライン講義 助成

新型コロナウイルスの影響で府内の大学が相次いでオンライン形式の講義を始めるなか、学生が自宅で受講できる環境を整えられるよう、大学側が支援金などの支給に乗り出している。

オンライン講義を受けるには、パソコンやタブレット端末、スマホが必要だ。自宅のインターネット環境を整えたり、スマホの契約を変えたりして、動画の視聴やテレビ会議への参加をスムーズにできるようにもしなければならぬ。学生によっては、想定外の出費が求められることになる。

安心して受講できるようにしようと、龍谷大(伏見区)は4月30日、「オンライン授業特別給付奨学金」を新設し、学生に一律3万円を給付すると発表した。京都外国語

生活困窮 学生を支援

大(右京区)も、通信経費として、学生1人につき2万円を助成する。

オンライン講義対策だけでなく、アルバイトが減って経済的に苦しい学生への支援も含めたパッケージを提供する大学もある。

立命館大(中京区)は、オンライン講義の準備用として約3万6千人の学生に3万円を支給する。さらに、アルバイトができなくなるなどで生活が困難な学生には、月額3万円を最長3カ月間支援する。

花園大(中京区)は、オンライン講義と収入減を念頭に、すべての在學生に一律5万円の緊急奨学金を提供する。京都産業大(北区)や京都精華大(左京区)、佛教大(北区)も同様の支援制度を作った。(小林正典)

大学が守る



龍大 食材サポート

龍谷大(伏見区)は2日、生活費に困っている一人暮らしの学生を対象に、食事面でのサポートを始めた。新型コロナウイルスの影響で収入が減り、食費を切り詰めている学生が増えているためだ。

この日は三つのキャンパスでそれぞれ午前、正午、午後3回、食材を無償で提供した。トマトやキュウリ、カップ麺、レトルトカレー、パスタなど14食分を1人ずつ渡していき、用意した5000人分はほぼなくなった。

深草キャンパスで受け取った法学部4年の池之俣遥奈さん(21)は「しゃぶしゃぶ屋のバイトの回数が週4から週1に減ったので、生活費の確保が大変。一人暮らしの学生にはありがたい」と話した。中国人留学生で国際学部3



配布された食材。献立表もついている

バイト減…一人暮らしに安心を



袋詰めにされた野菜を受け取る大学生(右)＝2日、伏見区深草塚本町

年の張琳さん(23)は「ホテル清掃のバイト先には『2月からしばらく来なくていい』と言われた。収入はゼロ。生活費と学費のことで不安がいっぱい。食材はこれからも受け取りたい」と語った。

配布した食材は、龍谷大と連携協定を結んでいる滋賀県東近江市から無償提供された1ト分のコマや、学生のインターン先の農場から買い取った肉や野菜、農学部の実習先でつくっている農作物など。今後は1食あたり100円で学生に提供する方針だとい

こうした支援のきっかけは、大学が4月下旬に実施した調査だ。約2万人の在學生を対象に、新型コロナウイルスの影響を調べたところ、4475人が回答に反応し、うち1189人が食生活に不安があると答えた。不安要素の最上位の一つだったという。

食材の購入費に充てるため、教職員や卒業生らからの寄付金を基にした「学生支援基金」も4月末に創設した。オンラインでのカウンセリングなど、学生の不安を解消する取り組みをあわせて進める構えだ。(高木智也)

- ・承諾番号20-1764 朝日新聞社が記事利用を許諾しています
- ・掲載日 2020年05月03日 朝日新聞 21面
- ・朝日新聞社に無断で複製・転載することを禁じる